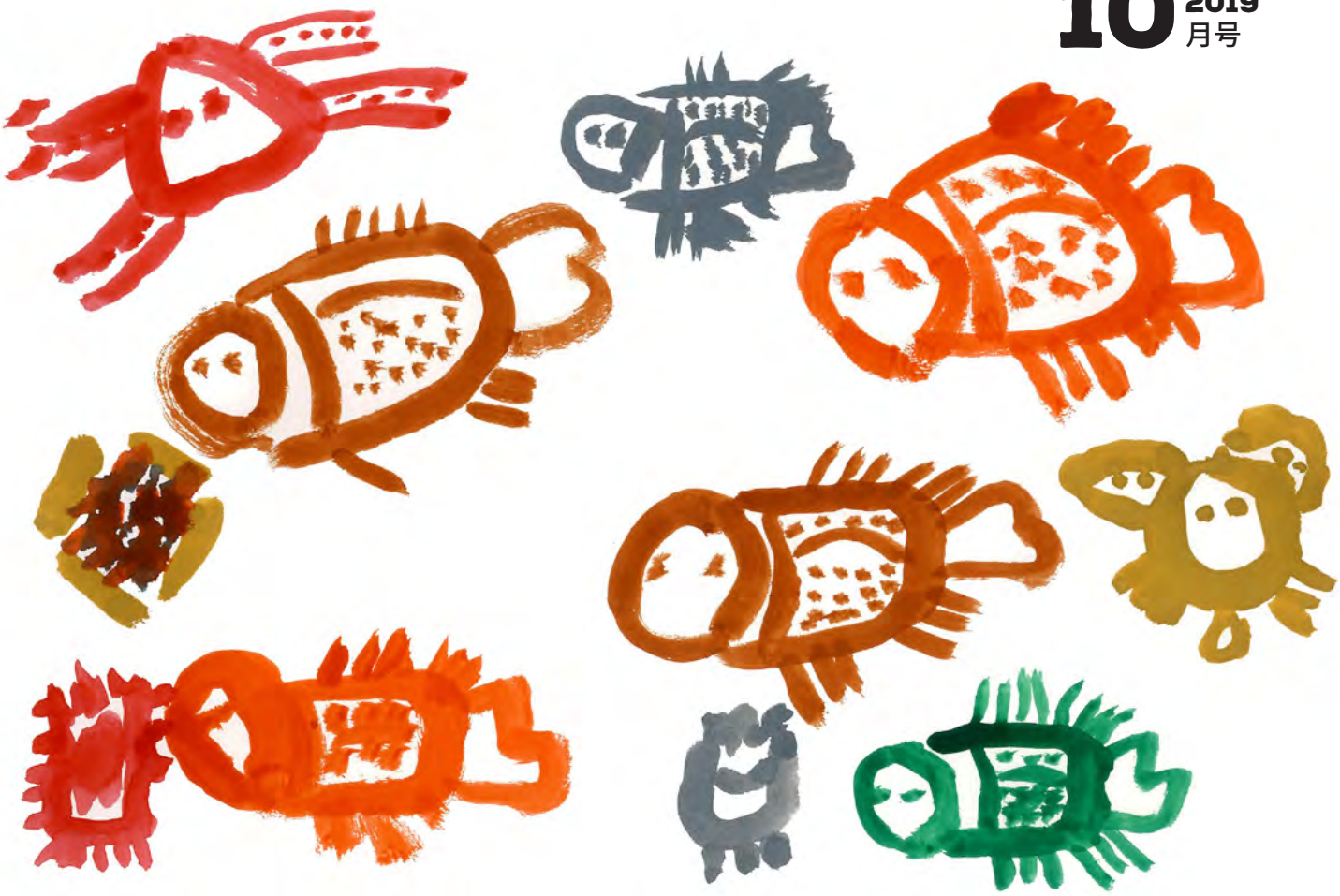
夢よひろがれ もっと

anniversary
vol.200

発行・編集
いぶきファミリー
（いぶき福祉会後援会）

〒502-0907
岐阜市島新町５番９号
TEL.０５８-２３３-７４４５
FAX.０５８-２３２-９１４０
E-mail.ibuki@alto.ocn.ne.jp

10 2019 月号



Daisuke Hayashi

２００号ありがとう

盛り上がりをみせているラグビーワールドカップ日本大会。
情熱・信頼・尊敬・ノーサイド…。いぶきにもよく似合う言葉です。
その熱気とともに、記念すべき第200号をお届けいたします。
いぶきをもっと身近に感じてほしい。
この会報からいろんなおしゃべりが生まれてほしい。
そんな願いをこめた恩田聖敬さんのエッセイや巻末４コマ漫画は
渾身の新企画です。「対話するいぶき」へご案内いたします。

目　次

2
200号に寄せて
3
「星に語りて」上映会報告
4−5
第二いぶきなつまつり
6−7
対話するいぶきへ
8
学習会報告
9−11
ホームで暮らすみんなと座談会
12−14
パストラル第2期活動報告
15−16
情報掲示板

200号に寄せて。

いぶきファミリー副会長・
夢よもっとひろがれ編集長
林　守男

今回の発刊で200号を迎える「夢よもっとひろがれ」ですが、1987年からの前史があります。発行母体も、「岐阜地区に共同作業所を作る会」「いぶき福祉会設立準備会」「いぶき福祉会後援会」「いぶきファミリー」と変わってきました。

いぶきが法人格を得て「いぶき福祉会」が発足すると同時に「いぶき福祉会後援会」が立ち上がり、その会報誌として発刊されてから200号となります。それ以前は「いぶきだより」「いぶき通信」という名称で発刊されていました。

私たちは、この会報誌がいぶきと関係者をつなぐ最も重要なツールとして大切にしてきました。ホームページやSNSが席捲している現代社会においても、定期的に情報を届ける方法はまだまだ紙媒体に勝るものはありません。私も、様々な団体の会員になっていますが、それらの団体の活動を知る方法としては、会報誌に頼っています。

「夢よもっとひろがれ」が創刊されるときに、年に何回発行にするかで議論がありました。年12回がいいのは言うまでもありませんが、その内容を充実させながらの編集・発行には人材と能力が必要です。また2000円の年会費をいただいている中で960円／年の郵送費が重荷でした。

しかし当時の後援会幹事長の森山寿さんの「まずは始めよう」のひと言で、毎月の通信発行がはじまりました。その後実績が認められ「低料第三種郵便物」の認可を取り、5分の1の郵送料で済むようになりました。しかし10数年前の「第三種郵便不正認可問題」のあおりを受け要件が厳しくなり、財政的に立ち行かなくなり現在は年4回の発行となっています。

通信第一号です。手づくりの通信は当時からいぶきと多くの方をつないでいました。

どんどん発行部数が増え、外部印刷となり、第三種郵便の承認を受けました。

A版カラーになり、見やすく、より多くの情報を伝えることができるようになりました。

「夢よもっとひろがれ」には他の会報誌にはないいくつかの特徴があります。もちろん事業の報告や行事の様子などは掲載されますが、私たちの考えていることを、福祉会以外の方にも理解してもらうために様々な記事が連載で組まれていることです。障害者問題をいわゆるトピックスでなく、身近な問題としてとらえていただくことに大きく紙幅を割いているのです。いわば「ニュース」と「クローズアップ現代」の違いのようなものでしょうか。

最近の福祉情勢を障害者問題だけに矮小化せず、貧困や差別、高齢者問題にも言及した社会保障に関する記事。仲間たちの日常の小さなつまずき、発達に関するちょっとしたしぐさなどに着目した実践記録。仲間たちの携わっている製品に関する開発ストーリー。仲間、保護者、職員の座談会。保護者（特に父親）のわが子の成長を喜び合える寄稿などいわゆる「読みごたえ」のある通信をこころがけてきました。

いぶき福祉会は障害のある人の豊かな社会づくりが、すべての人の豊かな社会づくりになると確信して事業を進めてまいりました。この会報によって多くの読者に共感を持っていただき、ともに住みやすい希望のある未来を作っていきたいと祈念しております。これからも「いぶき福祉会」「いぶきファミリー」をよろしくお願いいたします。

映画「星に語りて」上映会報告

きょうされん40周年記念映画「星に語りて」の上映も、9月17日の上映で早くも6回を迎えました。この度の上映会はパストラルいぶき第2期整備事業に合わせた寄附活動の一環として取り組んでいて、最初の上映は8月15日の夏休みの真っ只中のメディアコスモスでした。この6回の上映で延べ200名ほどの方にご覧いただき、様々な感想をいただきました。その感想の一部をご紹介させていただきます。

障害者や高齢者は避難所に居づらいことがわかりました。とても考えさせられました。

災害時に女性の人権侵害について考えていただいたことがあります。障害を持っておられる方、高齢者もそうですよね。人それぞれに色々と障害が異なるので様々なことを考えないといけないですね。日頃から交流し、知ることが大切ですね。誰もがかけがえのない命、マイノリティの方が生きやすい社会は、みんなが生きやすい社会なんだと再認識できました。素敵な映画ありがとうございました。（震災半年後、陸前高田へ行きました）

ただでさえ大変な災害時に障害のある人々のさらに大変な実態がよくわかりました。いろいろと考えておかないといけないなと改めて思いました。～をしていくではなく、“一緒に”がとても素晴らしいと思いました。災害時に必要なことは何か。日頃からのつながりとどこにどんな方がいるのかお互いに知っていることが、隣にいる誰かも自分自身も救うことになると思いました。

私は今大学生で震災が起きた時はまだ小学生でした。当時はテレビなどの情報が全てというふうでしたが私の知らないところで、このような壮絶な戦いがあったことを初めて知りました。この映画を見れて本当に良かったです。

誰もが安心して暮らすことができる街、それぞれの立場に立った備え。皆で支え合うことの大切さなど、いろいろと考える良い機会となりました。ありがとうございます。

私は支援する側の者として、色々なことを考えさせていただきました。これからも頑張って活動したいです。

困っている人がいたら私も助けようと思いました。

震災の怖さがわかり障害者の方のくらしはとてつもなく大変だなと思いました。

災害時、障害のある方の避難場所で課題があるのだと感じた。

地域ではまだまだ名簿が整備されておらず防災訓練の折も形式的なものでしかないので、地域で話し合っていかなければならない問題であると改めて確認しました。

実際に起こることを見せていただきました。震災の時起きることを実感しました。息子の日々の生活を思うと何をどう準備すべきか、また周囲とどう繋がるのか考えさせられました。

メディアから得た情報がとても少ないことがわかり、問題は山積みでとてもよく理解できる映画でした。今日知れたこと本当に良かったと心から思いました。

一人ひとりに合った支援というのが必要に感じました。この映画を通じて障害のある方たちに何が必要かを届けられたらいいなと思います。

親亡き後の心配はいつもしてますが災害時の障害者（我が子たち）弱者がどんなに大変なのか知り考えさせられました。

東日本大震災で障害者がどのように過ごしていたのか、今回の映画で知ることができて見にこられて良かったです。息子ももし震災があったら避難所に行くことが難しいので家で過ごすか、車中で寝泊まりするかしかないと思うし、福祉避難所の登録はしていますが本当に震災が起きた時どうなるか不安しかありません。行政がどのように動いてくれたかも今回分かりありがたかったです。

第20回

第二いぶきなつまつり

第二いぶき施設長　森洋三

7月13日(土)に第20回第二いぶきなつまつりを開催しました。午前中に曇り空を見上げながら雨が降らないことを祈りつつテント設営をしましたが、開会前からぽつりぽつりと雨が降りはじめ開会式が始まるころには本降りとなり、残念ながら雨の中の開催となってしまいました。しかし、会場には地域の方々や家族やいぶき関係者をはじめたくさんの方にお越しいただき、多くのボランティアの方々にもご協力いただいて、いつも通りの盛況ぶりで大変うれしく

思いました。
例年通り当日は数多くの夜店が出店しました。まつりならではといった、フランクフルト、唐揚げ、デザートなどのおいしいものから、風船釣りやくじなどの楽しめるものまでが並びました。雨のため、狭いテントの中で譲り合いながらお客さんが屋台の前に列を作り、屋台は終始活気をみせ、売り切れが続出していました。テン

トから出るときは傘をさしていない方にお客さん同士で傘をかしあって移動をしました。
また、仲間の店からは、この日のために準備してきた仲間たちの元気な声の呼び込みが聞こえ、日ごろ作っている商品とまつり特製のミナモのパフェを販売しました。皆さん笑顔で商品を手に取って買っていただくことがうれしく、商品の説明やその後買っていただいたお客様への商品の引き渡しなどドキドキしながらもうれしく販売を行いました。
ステージは毎回、素敵な司会をしていただいている浅井さんが温かみのある進行をしていただき、勇爽太鼓さんのおなかに響くような太鼓

の音で始まりました。雨のため室内になったステージでは迫力を間近で感じることができて一層盛り上がりをみせました。太鼓の演奏の後は、太鼓を参加者の皆でたたく機会を作ってい

ただきました。なかなか触る事のない大きな太鼓の振動を体で感じながらたたくことができ、とても良い経験となりました。
今年もミナモもやってきてくれました。ステージ上でミナモダンスを踊ると、小さい子を中心に知っている方も多く、曲に合わせて一緒にダンスをしたり、リズムに合わせて手拍子をしながらみんなで踊りました。ステージの合間にはミナモが会場内まで入ってきてくれて、ステージまで行くのが大変な仲間たちも大喜びでした。
仲間のステージ発表では第二いぶきの20年を振り返る発表をしました。20年間の歩みを振り返る中で地域の方々や関係者の皆様にあらためて感謝の気持ちを持つとともに、仲間一人ひ

とりが少しずつ人間関係や仕事ができるようになってきた喜びを会場の皆さんに発表しました。その後、パプリカと令和ダンスを踊りました。ステージ会場となった「笑」の部屋にはたくさんの人たちが詰めかけて、入りきれなずに部屋を取り囲むように窓から立ち見のかたもいらっしゃいました。まつりで一番の盛り上がりをみせ、一体感のあるステージとなりました。

雨に見舞われましたが、かえってご来場いただいた皆さんとの距離が近くなり、楽しさや思い出の共感を強く感じることのできるまつりになったと思います。今年仲間と考えたテーマは『ありがとう20周年　みんなと手をつないで
令和から新たな一歩』でした。今年も、準備から当日まで本当にたくさんの方々にご協力いただきました。地元の方々や出店団体、ステージ団体、ボランティアの皆さんをはじめ第一回か

らほぼ毎年、お越しいただいて、出演やお手伝いをいただいている方もたくさんいます。
第二いぶきができて20年を迎え、あらためて支えてくださる多くの方に感謝するとともに、幸せを感じることのできる素敵な時間となりました。
また来年もたくさんの方にお越しいただきたいと思います。ありがとうございました。

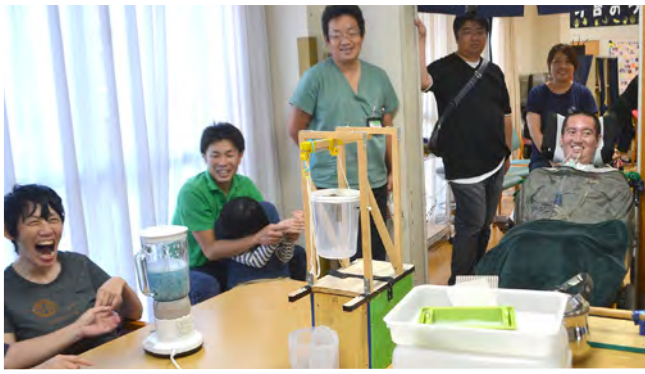
恩田聖敬

onda satoshi

対話するいぶきへ

北川 雄史

「まんまる笑店」いろいろな方に笑顔がとどけられるように。そんな思いがこめられたロゴのついたワンボックスカーを、第二いぶきの仲間たちがまちうけていました。FC岐阜に勝利の願いをこめた招き猫マドレーヌを贈るようになって10年。そんなクラブを誰よりも愛している恩田さんが訪ねてくださるなんて。そんな感激のままその日が始まりました。きっかけは恩田さんのFacebookでした。「私を経営者として雇いませんか」とつづられた言葉に衝撃を受けました。いぶきは25年前、仲間たちの働く場として生まれました。それ以来ひとりひとりがこの町でかけがえのない存在であれるよう歩み続けてきました。そんないぶきが、ALSを患っても信念を持っ



恩田聖敬プロフィール

1978年生まれ。岐阜県高富町出身。
京都大学大学院航空宇宙工学専攻修了。
Ｊリーグ・FC岐阜の社長に史上最年少の35歳で就任。現場主義を掲げチーム再建に尽力。就任と同時期にALS発症。2015年末、やむなく社長を辞任。翌年、『ALSでも自分らしく生きる』をモットーに(株)まんまる笑店を設立。講演、研修、執筆等を全国で行う。2018年8月に、気管切開をして人工呼吸器ユーザーとなる。私生活では2児の父。

BLOG：http://blog.livedoor.jp/onda0510/
FB：　https://www.facebook.com/onda0510

ＦＣ岐阜の大ファンの酒井聡さん、キャップは選手のサインで埋め尽くされています。

純粋な感情に満たされた空間

恩田 聖敬

それが私が第二いぶきを見て思った率直な感想です。わずか1時間ほどの滞在の中で、さまざまな純粋な感情に出会いました。

最初に出会ったのは純粋な喜びです。私を出迎えてくれた利用者さんはFC岐阜の大ファンでした。耳も聞こえない、言葉も話せない方でしたが、私の顔を見て飛び跳ねる勢いで喜んでくれているのが手に取るようにわかりました。

見学する中で最も素晴らしいと思ったのは、利用者さんそれぞれの症状や障害の程度に合わせて『役割』を設けていることです。介護というと、どうしても直接的に障害者を助けてあげると思われがちです。しかし、いぶきは障害者自らの手でできることを考え、その手助けをしていました。自らできる役割があるからこそ自尊心が芽生え、自分の居場所を確保することができます。実際見学している時に「俺の仕事も見て行けよ！」とアピールする利用者さんもみえました。純粋なプライドです！

今回の訪問で私は介護の本質をあらためて見た気がします。私は自分を障害者だと思ってなく、これからも何の引け目も持たず、健常者と障害者の世界を境なく行き来していきます。いぶきを通じてそんな障害者が増えることを望みます。

て生きておられる恩田さんから学び、ともに社会に届けられるメッセージがあるのではないかと思いました。仲間たちの活動を熱心に見てくださった恩田さん。その眼が深く優しいだけではなく、希望で輝いているのがとても印象的でした。

そんな恩田さんに1月号より連載をしていただけることになりました。連載に先立ち、恩田さんがお寄せくださった第二いぶきの感想と、企画を応援してくださった寺澤さんのメッセージをお届けします。ここから、みなさんとの新しい対話が始まることを楽しみにしています。エッセイ「心のバリアフリーナビゲーター恩田聖敬が愛を語る！」次号よりスタートです。

平田さんは、スタジアムの車イス席で隣り合わせた恩田さんから声をかけていただいていたそう。

須甲さん（右）なんと、恩田さんと同級であることが判明。「この年生まれの人は優秀な人が多いんですよね」とふたりで大笑い。

寺澤大祐

terazawa daisuke

「いぶき×恩田×寺澤？！」偶然の必然

寺澤 大祐

恩田さんがFC岐阜の社長就任の新聞記事を拝見したその時、その略歴を見て驚きました。なんと、高富中学校の1年先輩だったのです！ 再度彼の名をはっきりと認識したのは、社長職にありながらALSに罹患したというニュースでした。仕事柄、その後の病状の進行はすぐに想像できます。第二いぶきでお世話になっている弟、陽祐との生活から、これからやってくる彼の生活の激変も容易に想像できました。

闘病生活に入られた彼のことは自身で発信されるblogで拝見しておりましたが、私の想像をはるかに超える生活の実態と、（いい意味での）生への執着のあるがままのお姿を垣間見ることとなりました。令和になり、多くの偶然により直接お目にかかれることとなり、彼の目の力に圧倒されました。

「生きることは苦しいが、生命は美しい。」

私が各地での講演でお伝えする想いですが、彼は今まさにそれを実践し、発信されています。

20年前に陽祐を介して知ったいぶき福祉会という存在、そこに恩田さんが縁あってつながったこと。私にとって必然のような偶然でもあります。いぶきの中に恩田さんの想いが深く深く浸透することを願っています。

寺澤大祐プロフィール

1979年生まれ、岐阜県高富町出身。
2004年に宮崎大学医学部卒業後、高山赤十字病院、岐阜大学附属病院、岐阜県総合医療センター新生児内科、厚生労働省、長良医療センターを経て、2019年10月から岐阜県総合医療センター新生児内科医長。
脳性麻痺の弟　陽祐は第二いぶきの仲間。
全国各地からの講演依頼が殺到する、ちょっと普通じゃない新生児科医。

パストラルいぶきのリビングにて。恩田さんの生き方そのものが恩田ブランドだよねと話す寺澤さん。

又村あおいさん学習会をおこないました。

8月10日、北部コミュニティーセンターで、全国手をつなぐ育成会連合会の又村あおいさんを招いて意思決定支援の学習会をしました。この会は、パストラルいぶき第2期整備事業に際して、ハード面だけでなく本質的に本人の地域生活を支えるために仲間の意思をどのようにとらえていったらよいかを考える機会として設けました。参加者は30名ほどで保護者、施設職員、学校関係者など幅広い方にご参加いただきました。
又村さんからは意思決定支援とはそもそも何かという話をとても丁寧に順序だててお話をしていただきました。そもそも、障害にかかわらず、誰もが意思を持っていて尊重されなければいけないという前提のうえで、障害ゆえに表現できていない部分をどうとらえていったらよいかをガイドラインなどに照らし合わせて一緒に考えました。本人だったらどう思うかを考えるのかが大切であり、それができるシステムづくりが必要だと感じました。
お話の中で「施設職員はよくこの人（利用者）にはこのサービス（支援）が必要だということあるがそれは職員が必要だと思っているだけで、本人は本当に希望していますか？」という問いかけがあり、とてもドキッとしました。他者の思いと本人の思いを一緒にしてはいけないというお話は簡単に聞こえますが日々陥らないように気を付けないといけないと強く感じました。
終了後、保護者から今、将来の経済的不安や介護保険などの質問がでて、実態に即した具体的な話がお聞きできました。いくつかご紹介します。大変わかりやすく、心に残る学習会となりました。又村さんありがとうございました。

第二いぶきを見学、草木染のストールをご購入いただいた又村さん。つくりての安藤さんも嬉しそう。

Q 子どもの障害年金をためすぎると障害年金の支給が止まるという噂があるが本当のところどうなのか？

A 現時点でそんなことはない。将来、障害者も介護保険ような制度になると個人の資産が負担額に関係してくることがあるかもしれないが、現在はない。

Q 子どもの将来のためにお金をどのように残していったらよいのか不安。

A 親がいなくなったときに子どもにいくらお金が必要かはある程度計算できる。それに現在もらっている年金を引けば月額いくら足りないかも出てくる。それを誰がどのように運用していくかも大切。そのまま現金で持っているか、成年後見をつけるか、信託を利用するかの3択になると思う。それぞれ利点が違うのでまた、検討いただけるとよい。

これに続く学習会を10月22日に予定しています。
いぶき福祉会「親なきあと」のことを考える「親あるあいだ」準備講座（P14参照）
暮らしをささえるお金の話がテーマになります。ぜひともご参加ください。

ホームで暮らす皆さんと座談会をしました。

左手前より時計回りに、上田千悦子さん、金子さおりさん、星野朋子さん、須藤佳代子さん、竹内美智子さん、正木玲子さん、世話人の今西さん。地域支援部職員の池田と山中、田中が一緒に和気あいあいおしゃべりしました。

池田：今皆さんにも読んでもらっている通信「夢よもっとひろがれ」って、今度のやつでちょうど200号。特別記念号になるんですよ。その特集のテーマが、皆さんホームで生活し始めて何か良かった事とか、この先こんな生活がもっとしたいとか、そんなところの率直な話を聞かせて頂こうと思って。もちろん皆さんホームに入ったきっかけはそれぞれなんだけど、ざっくばらんに色々なお話しできたらなあ、と思ってやって来ました。

山中：最初ホームは、文子さん（故川島文子さん）と、千悦子さん（上田さん）だったけど。ねえ、千悦子さん、一番に文子さんと一緒にホームに入ったもんね。

上田：（頷く）

池田：しまホームは、ほら、昔ここじゃなかったでしょ。ほら、則武のところ、マーサのこっち。

竹内：一回見学に行った、私。（笑）

山中：昔のしまホームの頃に？

竹内：階段があったでしょ。私、無理だって言って断った。

池田：ああ、あそこの階段は急やったでね。ここもまあまあ急だけど。

山中：でもここは1階もあるから。

上田：文子さんとは長かった。

山中：ねぇ、長かったね。文子さんとずっと長く一緒に暮らしとったもんね。その時さおりさん（金子さおりさん）もホームに入ってきたよね。則武にあったときに。

金子：入った。

山中：ホーム入るふうになったのは、金子さんは東京から帰ってきて、下呂じゃなくて都会で暮らしたいな、って言ってしまホーム入ってきた。星野さんはどうしてホームに入るようになったのかな？

星野：私の場合は、父も母も居なくなったときに、姉さんのところにおった時に、ホームに入った。しまホームに。

池田：美智子さんと、須藤さん、正木さんはここの場所に来てからだもんね。この場所になってから。

須藤：（にこにこして頷く）

正木：私、いっぺん入った。（笑）

池田：え？

山中：正木さん、いっぺん入って、やっぱり考え直した。

池田：そうなんだ。それ、僕知らないよ。（笑）

正木：ほんの少し。（笑）

山中：辞めたけど、また入ろうと思ったのは何で？

正木：もう親が年やで。面倒かけられないから。

山中：どっかでは決めなあかんもんなあ。

正木：いずれはさ、もし親が亡くなったときに、そう思って入った。

山中：ねえ。その時に急にバタバタするのはしんどいもんね。

池田：うん。そうやろうね。

山中：美智子さんも？

正木：永田さん（職員）にすすめられて。ショートステイ使ってて、本当は7月までやったけど、途中で。で永田さんに全部用意してもらって。4月の17日に初めて入った。

池田：なるほどね。美智子さん、確かそのちょっと前に引っ越しをしたよね？お母さんと一緒に。そんな変化もあって、そういうのが何かきっかけにはなった？

竹内：はい。

山中：千悦子さんもお姉さんおるし、美智子さんもお母さんおるし、正木さんもお母さんおって。お互いなんか支え合っている気がするんだけど、別々に暮らすこと選んだんやね。入ってみてどうやったね？ホームに入ってみて。

竹内：ホームに入って最初は緊張して、体がうまくいかんかったけど、慣れた時はもう体が元に戻った。

山中：えらいこっちゃ。

竹内：もう慣れたよ。

池田：みんな最初は緊張するんですよね。

山中：星野さんはホーム入ったばっかりの時どうやった？

星野：ホーム入った時？最初は迷ったんだけど、今は楽しい。

山中：何が楽しい？

星野：やっぱり自分の部屋で色んな事できるし、仲間と仲よくできるし。世話人さんとも仲良くできるし。

山中：みんながおるで、いいかね。休みの日は外出してる？

星野：お姉さんと行く時もあるけど、たまにコンビニ行ったり、なん

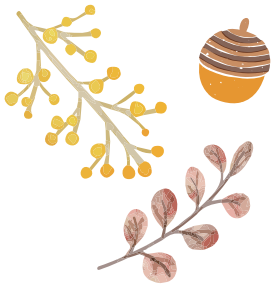
か買いに行ってホームで食べたり。
山中：星野さんも自分で買い物行ったりするもんね。さおりさんも自分でコンビニ寄ったりするね。何曜日と何曜日に寄るんやったっけ？
金子：月と金。
池田：そこのコンビニやね？歩いて行くの？
山中：何買って食べるの？
金子：（内緒というジェスチャー）（一同笑）
池田：大丈夫だよ。言っても大丈夫。
金子：アイスクリーム。
山中：うん。今、暑いもんね。
池田：そうだよね。
山中：お仕事がんばった楽しみやもんね。星野さんとか、美智子さんとか、正木さんはどこかで寄り道したりはしない？あ、今、送迎か。
星野：そうですね。
竹内：はい、寄り道はしない。（家に）帰った時ぐらいやね。
山中：帰った時は、美智子さん何処へ行っとるの？
竹内：帰った時はお母さんとモーニングに行く。
池田：モーニングですか、やっぱり
竹内：あとは、近くで、あかのれんとか。
池田：あのバローのとこやね。そういえば、前にスガキヤの所で会っちゃったね。
竹内：たまに三洋堂寄って、本買ったりする。
星野：私もお姉さんとランチしたりイオンや美容院にいく。
山中：正木さんは、週末お母さんと晩酌。金曜日の晩だけ？(笑)
正木：金土日と(笑)
山中：3日間。正木さんここでは飲まへんの？
正木：うん。

山中：上の冷蔵庫にはいってたり？
正木：ないよ(笑)　飲んでいい？
池田：それは別に良いんじゃない。
正木：OK？
池田：OKだよ。でも二日酔いにはならないでね。(笑)
山中：自分の飲める量とか分かっていて飲むならね。買い物行ったりしてる？
正木：うん。土日は映画観に行ったりね、マーサ行ったり、柳ケ瀬行ったり。
山中：柳ケ瀬行ったりすると、高島屋でばったり会ったり。高島屋行くと必ず誰かに会う。(笑)
竹内：私も会うよ。
山中：美智子さん岐阜駅の辺でばったり会う。トイレで会ったりして、「ああ」ってなる。千悦子さんは、ヘルパーさんと一緒に買い物行っとるもんね。
上田：マーサ行く。
池田：あ、あと月1回は高齢のデイサービス行ったりするもんね。
上田：おばあちゃんところ。
山中：さおりさんはヘルパーさんとどこ行っとるの？今。
金子：マーサ。
山中：マーサ？何買うの？
金子：マーサで靴下買ったり、衣類買ったりとか。
池田：服買うんやね。お洋服。
みんなそれぞれに暮らし始めたきっかけはそれぞれだけど、楽しそうやね。
正木：うん、楽しいよ。面白い。
竹内：面白い。
星野：うん。
山中：ホーム楽しいけど、もうちょっと何かこういうことあったらいいな、とかありますか？
竹内：たまにはお出かけしたい。
山中：今の発言、早かったなー。
金子：たまにはお出かけしたい。
田中：こないだ、お寿司に行った。
星野：あー！お寿司に行ったよね。伊藤さんと。
竹内：そんな会をつくってみたい。
山中：外食はいいね。
池田：外食ね。そういや、そういう機会は少ないのかな。
正木：もっと行きたいね。
田中：こないだの評判良かったね。
正木：一杯飲んだ。
山中：飲んだ？（山中・池田笑う）
池田：なるほど。

山中：それはいいこと。いいな、寿司屋で一杯いいね。
正木：今度は肉食べたい、肉。
須藤：（強く頷く）
山中：肉食べたい？ああ、言ってた言ってた。伊藤さんが今度みんなで肉だって言ってたって。なんだ？ここは肉食女子の集まり？(笑)
金子：ご飯おかわりはできる？お肉のところ。
山中：それもリクエストに入れとかないかんね。ご飯はおかわり出来るところで肉が食べれるところ。
金子：自分でよそうところ。
池田：自分でよそうところと言うと？

金子：バイキング！
池田：そう、バイキングやね。そっか、外食ね。そういう機会は確かにね、あんまりなかったから、そういうのは増えるといいよね。
山中：来年あたり、いっぱい遊びたい人と、ゆっくり過ごしたい人と別れて旅行に行けるといいなと伊藤さんが話していた。まだまだ皆さん泊まりの旅行に行ける体力はありますか？
正木：行ける。賛成。
須藤・金子：（頷く）
竹内：私ね1回、男性と女性と一緒に食事行きたいなと思ってたけど。
竹内：どんな食事するか見たいで、一緒に食べに行きたいなと思った。
正木：いっぺん向こうも一緒に、女性も一緒に旅行に行きたいねって。
竹内：ねえ、いっかい旅行一緒に行きたいなと思って。
正木：前に、一緒に行ってたよね。
田中：ここに写真あるね。
山中：これは地震があった時やね。3.11の日。
池田：あの時ね、大変やったもんね。
山中：バスの中で千悦子さんと、文子さんがぶつかるくらい揺れたって。その時いたのは、さおりさんと、美智子さんと千悦子さん。
池田：先に泊まるところとか予約してあったからあれだけど、あの日地震があって家に帰れない人たちが泊まる場所がなくて大変だったって言ってた。
山中：地震の時は他のみんなどこでどうしていたの？
正木：仕事しとったね。
山中：普通に仕事しとった？
田中：一応机の下に隠れたような気がする。おやつかお茶休憩のときかなんかで「揺れた！やばい！」って言って、とにかく机の下にって話と、ホームどうするんだって言って必死に電話をかけたんだけど、全然繋がらなくって、みんな心配してた。
金子：潤美さん、私のこと大事？
池田：すごく大事にしているね。
　　大事。みんな大事にしてる。
金子：私の事以外もみんな大事？
正木：みんなも大事。
山中：うん、みんなも大事やよ。
　　仲間は大事。
正木：このホームはみんな親子。兄弟。
山中：さおりさん、イメージで妹、

お姉ちゃんとか言うけど、さおりさんからすればみんなお姉ちゃんになるか。お姉ちゃんいっぱいじゃん。
正木：ねえ。一番年下でしょ。
金子：私が一番みんなより年下？
正木：一番年下。
星野：年下。
正木：一番上の人は千悦子さん。
山中：千悦子お姉ちゃん。
金子：上の一番は千悦子さん。
正木：お姉ちゃんは大事にしないかんよ。
田中：次のお姉ちゃんはどっちかな？
山中：まあその辺はざくっと。(笑)
正木：ね(笑)
池田：ざっくりしておきましょうか。別に順番はね、はっきりさせなくても良いかな。
金子：みんな私のことのびのびして良いなと思ってる？
正木：うん。
星野：のびのびしてるよ。
山中：若いっていいなって思うよ。
正木：一番末っ子。
星野：末っ子。
山中：かわいがられるじゃん、一番。いーなー。(一同笑)
池田：なんか皆さんここに来てからすごい楽しいっていうのがすごくよく分かりました。あと、ここに来てね「外食行きたい」とかね、色々話しが聞けてすごく良かった。本当にありがとうございます。さてボチボチこの辺でおいとましましょうか。
金子：今度新しい人いつ決まるかわからない。
池田：新しい人？あ、新しい世話人さんのこと？
山中：優しい世話人さんが長いこと働いてくれると嬉しいね、って言いたいんだよね。
金子：いつ来るかわかんない。
山中：わかんない。それは誰にもわからない。
池田：僕にもわからない。
竹内：ひみつ。
山中：いやいや、秘密とかじゃなくて、まだいないんだよ。
池田：ホント分からない。すみません、美智子さん。
山中：秘密にできるくらいになりたい。
池田：じゃあ、最後に「新しい世話人さんを現在募集中です!」で終わりましょうか。(笑)



寄附集めの活動レポート

寄附集めを通じて、私たちはたくさん方とつながってきました。実は、私たちの願いをうけ入れていただけるか不安がありましたが、たくさんの共感とご支援に励まされ、心暖まる日々が続いています。
このご支援が誰もが住みやすい地域の輪となっていけるよう努力を続けたいと思っています。以下に活動のご報告をさせて頂きます。

地鎮祭がとりおこなわれました

8月20日午前8時30分より、滞りなく行われました。法人からは横山理事長、林副理事長、北川専務理事、池田事業部長、和田事務長、いぶき保護者会長の大野さん、第二いぶき保護者会役員の川島さん、仲間代表の原さん、高瀬さんが出席しました。地主の笠井伸治さん、交通安全協会三輪北支部長で造成用の土をご寄附くださった山口繁さんにもご参加いただきました。

花火大会光る玩具の販売

FC岐阜さんのご厚意で開催。光る玩具の販売は初めてで心配でしたが、8月３日の初日には、400品近い商品が売れ、売り上げ金は114,100円になりました。８月17日には97,700円、２日間の合計は211,800円に。
父親の会の方々もほとんど休憩なしで寄附のお願いパンフレットを配ってくださいました。読んでくださった方があとから募金しに来てくれたり、子どもたちまでが募金をしてくれました。特に印象深かったのは、300円を握りしめて店の前で商品を選んでいた男の子。ひとしきり商品を見たあとにその300円を募金箱に入れてくれました。思わず、「どうして募金してくれたの？」と聞くと、その男の子は「一番役に立つと思ったから」と答えてくれました。実際にその場で見たり話したりすることの大切さを感じました。

日が暮れたら、続々とお客さんが来てくれました。

かき氷販売

コープぎふさんのご協力で、８月と９月の水曜日に計８回、長良店と芥見店にて保護者や仲間と一緒にかき氷の販売をさせていただきました。来店するお客さんの方から「今日は何をやっているの？」と話しかけていただくことがたくさんありました。来店時にチラシを渡すと、買い物の最中に読んでくださり、帰る時にお金を入れて頂く方が多かったです。特に仲間が募金を呼びかけると説得力があり、たくさんのご支援をいただきました。

街頭募金活動

9月26日、JR岐阜駅で一斉街頭募金活動を行いました。のべ100名程度の保護者・仲間・職員が参加しました。千円札を入れていただける方も多く、大変ありがたかったです。この1日だけで5万円を超える募金額があり大きな弾みとなりました。

販売会・出店

いぶきは、日ごろからたくさんの場所で保護者や仲間、職員が協力してバザーや販売会を行っています。

エーザイ株式会社さんにて隔月出店させていただいています。商品を笑顔で勧めるスタッフ、募金してくださる方に笑顔で会釈するスタッフ、仲間みんなで協力しました。

8月31日各務原産業文化センターで行われた育フェスに仲間と保護者さんも一緒に参加しました。お客さんから、「これ岐阜駅にあるやつですよね？」「ねこの約束でよく買っています」など嬉しいお声をいただけて、いぶきの活動の広がりを感じました。

８月25日「FC岐阜vs柏レイソル戦」に出店させて頂きました。多くのサポーターの方が集まる試合となりました。FC岐阜×いぶきのタオルマフラーも登場、難波選手も応援してくださいました。このタオルを通じてFC岐阜からご支援いただいています。

情報掲示板

訃　報

この度、いぶきの設立メンバーのおひとりである竹中隆晟さんが、2019年8月4日（日）15時、享年82歳の生涯を閉じられました。その1か月ほど前に体調を崩され入院加療を行っていましたが、残念ながら薬効の甲斐なく帰らぬ人となられました。

竹中さんはいぶきだけでなく、岐阜市・岐阜県の障害者福祉施策の向上のための運動にも大きな功績を残されました。発足当時から岐阜市に対し無認可小規模作業所の補助金の増額を訴え続け、いぶきが法人化を成し遂げた時には、認可施設並みの補助金額まで増額されました。さらに車による送迎が一般的でなかった当時、送迎車両の補助制度を創設させたのも、大きな功績でした。

いぶきは竹中さんの、今ある制度をできうる限り利用し、新しい制度を創設させる、という考え方を引き継ぎ、法人化後も岐阜市初の知的障害者デイサービス・重症心身障害児者通園事業、重度重複障害者グループホームなどを整備運営してきました。

竹中さんの始めた廃品回収、いぶき便りの発行、きょうされん運動への参画などの種まきが結実した現在のいぶきの姿を見ると、その功績の大きさを改めて感じさせられます。

現在いぶきは職員約150名、仲間約150名の集合体ですが、竹中さんの投じた一石がなかったら、皆ほぼ別の人生を歩んでいたことでしょう。

不思議なご縁でいぶきにつながった私たちは、竹中さんの死を悼むとともに、形ないものから形あるものを作ってきた竹中さんに学び「実践・経営・運動」を大切にしていきたいと思います。

林　守男

いぶき福祉会
「親なきあと」のことを考える
「親あるあいだ」準備講座

日時：10月22日（火祝）
　　10：30分～13：00
場所：北部コミュニティセンター大集会室
講師：「親なきあと相談室」
　　代表 渡部伸氏
　　http://www.oyanakiato.com/

パストラルいぶき第2期設立プロジェクト
『この４ヶ月の対話を
いぶきの未来につなげる会』

この４ヶ月の思いをそれぞれの立場で語り、会場の皆さんと対話をしてプロジェクトの進捗と成果を確認します。

日時：10月22日（火祝）
　　16：00　開場
　　16：30～思いを語る会
　　18：15～懇親会　軽食有(有料)
場所：ハートフルスクエアーG 2F大研修室

両日程共お申込みが必要です　058-233-7445/いぶき

いぶきファミリー賛助会員への新規加入・更新のお願い

年会費　個人：1口 2, 000円　団体：1口 10, 000円

ご入金　①クレジットカード http://kessai.canpan.info/org/ibuki/
（更新手続きがいりません）
②郵便振替：00840＝3＝91146　加入者名/いぶきファミリー
③直接窓口：JR岐阜駅「ねこの約束」・いぶき福祉会

▲クレジット決済窓口

お問合せ　いぶきファミリー事務局（いぶき福祉会後援会）
TEL 058-233-7445　FAX 058-232-9140　E-mail iibuki.m@ibuki-komado.com
（タイトルに賛助会員と入れて下さい）

いぶきでの何気ない日々の営みのなかに私たちはたくさんの小さな感動を感じています。そんな、いぶきの日常を4コマ漫画で切り取ってみました。いぶき職員の4コマ作成チームでワイワイ、がやがや話し合ってつくっていきます。気軽に、ほっこりした気分で読んでいただくことを願っています。

編集後記

千葉県における台風の被害が報道されています。今まで千葉県は種々の大災害には無縁の地域だと思っていたのですが驚きました。時に東京に隣接している地域にも関わらず、社会インフラの脆弱さ・復旧の遅さには忸怩たる思いを禁じえません。沖縄に吹く風と千葉に吹く風に違いはないのでしょうが・・・。

私たち「いぶき福祉会」も開設以来、幸いなことに大きな事故・不祥事・経営難など致命的なダメージはありませんでしたが、逆に言えば「逆風に弱い」とも言えます。これからも慎重かつ大胆に進んでいきたいと思います。

林守男

夢よもっと
ひろがれ
vol.200

ここまでたくさんのご支援をいただいて活動を頑張ってきましたが、残り２３日で6,004,053円足りません。募金期間は10月末日までです。皆さんの一層のご支援をよろしくお願いいたします。

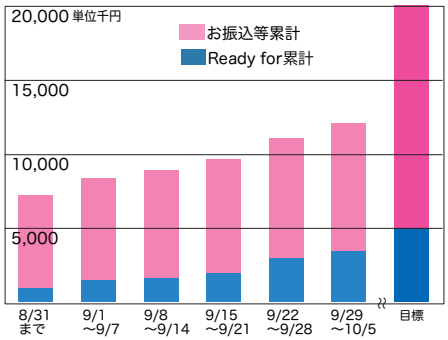
≪10月８日現在ご寄附の状況≫

件数 1308名　13,995,947円　達成率 70.0%

・一般（お振込み、直接お預かりした場合など）…　947名　10,200,947円　目標 1500万円のうち 68.0%達成
・クラウドファンディング（Readyfor）…　361名　3,795,000円　目標　500万円のうち 75.9%達成

ご支援の週別推移

月　日	件数	累　計	
		お振込等累計	Ready for累計
8/31まで	714	6,422,875	939,000
9/1～9/7	840	6,983,790	1,484,000
9/8～9/14	935	7,344,678	1,682,000
9/15～9/21	1,008	7,741,886	1,957,000
9/22～9/28	1,088	8,124,386	3,006,000
9/29～10/5	1,188	8,684,872	3,461,000
目　標		15,000,000	5,000,000



目標は 10/31まで 2,000万円。あと、23日で 6,004,053円

おすすめ！　クラウドファンディング（Ready for）の場合

クラウドファンディングとは…
インターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募るしくみです。欧米では、一般的な資金調達の方法として早くから認知されています。

https://readyfor.jp/projects/ibukiyumehiro2020

Readyfor の登録・支援方法

◆メールアドレスかフェイスブックで登録
1.Readyfor TOPページの右上にある【ログイン】をタップ。
2.【メールアドレスで登録】又は、【Facebookで登録】を選択。
3.メールの方は以下を入力し、【アカウントを作成】をタップ。
・お名前（ニックネーム）　・パスワード
・メールアドレス　・パスワードの確認
4.Readyforから届くメールの本文内のURLをタップ。

◆ログイン方法
1.Readyfor TOPページの右上にある【ログイン】をタップ。
2.メールアドレスで新規登録された方は登録したメールアドレスとパスワードを入力し、【ログイン】
Facebookで登録された方は、メールアドレスか電話番号とパスワードで【ログイン】

◆支援方法
【このプロジェクトを支援する】からリターンを選択
支援したいリターンの個数をお選びください。
支払方法（クレジットカード）または（銀行振込）を選択
【次に進む】支払情報の入力
確認画面にて内容をご確認いただき完了！

銀行振込・郵便振込の場合

10,000円・5,000円・3,000円・1,000円

▶銀行振込
大垣共立銀行島支店　普通口座　口座番号１９４９１１
口座名義　いぶき福祉会ケアホーム・レスパイト設立委員会

▶郵便振替
口座番号　００８３０－１－１０６０８０
口座名義　いぶき福祉会ケアホーム・レスパイト設立委員会

お届けくださる場合

□いぶき福祉会本部　岐阜市島新町5-9
□いぶき福祉会第二いぶき　岐阜市出屋敷493
□ＪＲ岐阜アクティブＧ2Ｆねこの約束　岐阜市橋本町1-10-1

お問合せ

いぶきファミリー事務局（いぶき福祉会後援会）
TEL 058-233-7445・FAX 058-232-9140
E-mail ibuki@alto.ocn.ne.jp